



会話を増やして 事故を減らそう 笑顔を増やそう

## 安全はドライバーとその家族の笑顔が続くための手段

例えば、事故のニュースを参考に「やるべきであった安全行動」と「やめるべきであった危険行動」を、「事故が起こる前」に共有しましょう。会話ができれば事故が減り、笑顔が増えてきます。



やるべきであった**安全行動**

- ・運転室内の整理整頓
- ・眠くなる前に休憩

やめるべきであった**危険行動**

- ・脇見運転
- ・ながら運転

マンガ制作:ad-manga.com

「今年1年、交通事故ゼロ」と、漠然とした長期的な目標(ゴール)だけを掲げるよりも、今日1日、交通事故ゼロを目指して、実践すべき行動(ルール)を、ひとひとつ、365日続けましょう。

また、事故が起こってからミーティングを行って、事故の原因について「なぜなぜ分析」をするのは普通のことです。しかし、事故が起こっていない時にもミーティングを開催し、「無事故の理由」を「なぜなぜ分析」する方が意見も出やすく、それぞれの安全への工夫を共有することができます。安全とは「見地味な活動に思われがちですが、皆さんの笑顔が続く大切な手段です。」

### 事故を減らして笑顔を増やそう

### 無事故に向けた「あと1%」の努力

年間を通じ、運送会社にとって交通事故がない日の方が多いと思います。たとえ事故を繰り返す人であっても、ほとんどの日は無事故を達成できているはずですよ。

99%は無事故であるならば、1%の事故を0%にする(あと1%)と「あと1%の努力」で事故ゼロを達成できるといえます。そして、その努力に不可欠なのが「安全への100%の熟慮」と「100%の行動」です。やるべき行動として、事故が発生したあとに「あれをやっていたらよかったや」「やはり続けていればよかった」と悔やまれる項目を、「事故が発生する前」にミーティングで共有して実践しましょう。

# 安全の会話で事故ゼロの職場を築こう

危険箇所や危険な経験を共有して  
安全ルールを  
みんなで考えましょう!

## へこみ傷、それは危険を知らせる痕跡

訪問先の構内で、屋根のへこみ傷や壁の擦り傷などを発見したら危険箇所と捉えましょう。そして大切なのは、その情報を今後初めて訪問するかもしれないドライバーと共有することです。



仕事のやり方だけでなく、構内のヒヤリハットポイントも共有しよう!

### 建物の傷跡から知る、危険箇所のメッセージ

ドライバーが一人で向う初めての訪問先では知り合いもおらず、また作業についても聞くことができないため、単独になりがちで何かと不安なものです。そのようなドライバーに仕事の説明をする時には、到着までの道順や到着後の手順に加え、敷地内の危険箇所も伝えて共有しましょう。例えば、接車場所付近で他の人が接触事故を起こした痕跡がある箇所や、フォークリフトを使用する場合には、路面の状態(傾斜・段差)へこみも伝えます。自分が気づいた危険な場所や状況について会話をすることで、みんなの安全に貢献できるのです。

また、あなたのまわりで危ない行動をしているドライバー仲間がいたら指摘をしましょう。一方、指摘をされた人は、自分の間違いを教えてくれたことに感謝をしましょう。かばい合う組織は仲良しクラブの域であり、仲間のミスをみすみ見逃すことにもなりかねません。「人は信じて、仕事は疑う」のが真の仲間です。その関係性により、ミスを防ぐことができます。そして、誰かにアドバイスをすることは、お手本になることで自身も安全になれることから、「指導は人のためならず」といえるでしょう。



高柳 勝二 (たかやなぎ かつじ)

株式会社 プロデューブ代表取締役。1990年、運送会社にドライバーとして入社し、管理職を経て18年間勤務。2008年に株式会社 プロデューブ設立。中小運送会社からの依頼が多い「提案型」研修は、受講されたドライバーや管理者からの「おもしろい、眠くならない、分かりやすい」との評判が口コミで広がり、各都道府県のトラック協会や協同組合等の研修会でも講演多数。2016年度より国土交通省「自動車運送事業に係る交通事故対策検討会」委員。